



第12回福岡市都市景観賞受賞作品 FUKUOKA URBAN BEAUTIFICATION AWARD 1998

総評 審査委員長 中村 善一

第2回福岡市景観エッセーに寄せられた104点に及ぶエッセーをつぶさに読み進むと、そこにきらめくような作者の“思い”や新鮮な思考の角度を発見することができた。今回初めて実施された学生による事前調査とプレゼンテーションにも、若者たちの都市景観に対する並々ならぬ意欲を感じた。

都市景観賞の応募総数739通、うち有効応募総数は669通である。その内訳はシンボル部門347通、アメニティ部門263通、テーマ部門43通、特別表彰16通であった。経済不安に満ちた時代の趨勢にもかかわらず、このような高まりがみられたことは福岡市民の都市景観形成への意識の高揚と期待感を示すものと思われる。

都市景観は人と都市とを結ぶ大切な絆である。時代の文化や社会性を背景に展開される豊かな創造活動のひとつとして都市景観賞の審査は厳正で慎重な審議を重ねて決定された。



都市景観賞座談会

参加者(敬称略)



福岡市都市景観賞審査委員長
中村 善一 (九州産業大学芸術学部教授)
審査委員
田崎 暁二 (ランドスケープアーキテクト)
同
吉田 浩 (西日本新聞社文化部長)

奥から
渡邊 健二郎 (九州産業大学)
末次 真由美 ()
阿部 絵美 ()
長谷川 祐也 (東和大学)
上條 裕嗣 ()

奥から
村上 明生 (九州芸術工科大学)
石田 昌孝 (東和大学)
山崎 洋子 (九州産業大学)
安藤 嘉祐 ()

※複製審査には、他に次の方々にもご参加いただきました。
また、九州大学からもオブザーバーとしての参加がありました。
高井 大輔、豊福 太郎、星野 敏和、日高 晋作(福岡大学)、松本 輝紀(九州芸術工科大学)、
後藤和政、寺 真由美、高村 みゆき、前田 祥、初山 こずえ(九州産業大学)

アクロス福岡

所在地 中央区天神一丁目1番1号
所有者 第一生命保険相互会社・福岡県
三井不動産株式会社
設計者 株式会社日本設計
株式会社竹中工務店九州支店
施工者 竹中・高島・清水・九州・高松・
芦田建設工事共同企業体



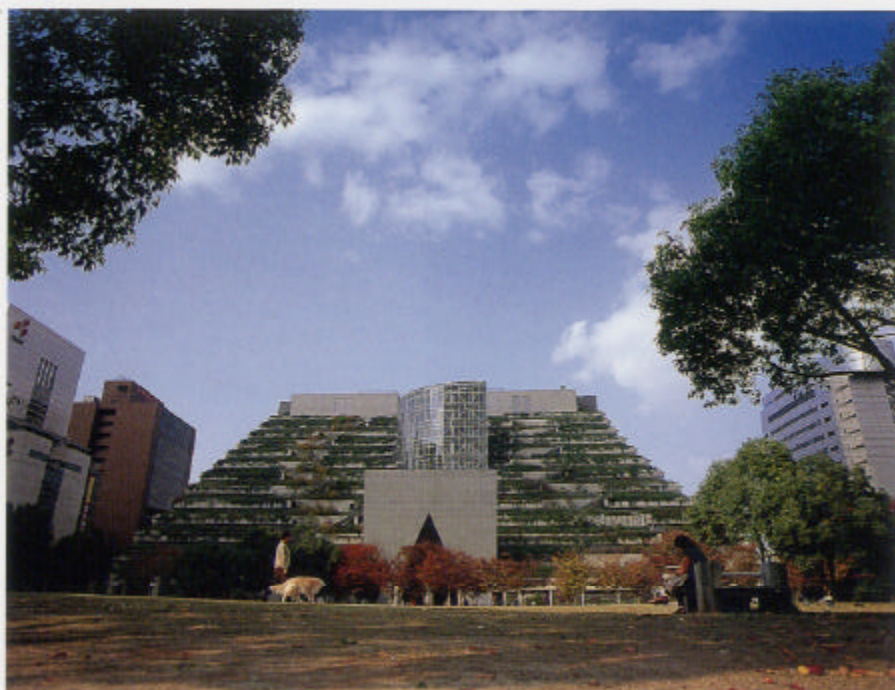
【講評】

アメリカの建築家エミリオ・アンハーツの「庭園は始まりの神話である」というコンセプトによるアクロス福岡が完成して、すでに4年の時が流れようとしている。北側と南側にまったく異なったファサード（建築物のおもて面）を併せるこの建物の最大の特徴は、南側面をダイナミックに傾斜させ、段々畑のような階段をつけて緑化し、建築とランドスケープ（造園）の劇的な融合を実現させているばかりでなく、隣接する天神中央公園とも利用性と景観性を連動させている点にある。ステップガーデンと呼ばれるこのランドスケープの大膽な導入は、都心部に自然をふんだんに取り入れるオープンスペースのあり方に新しい方向性を示すものとして高く評価される。通常、建物は完成時が最も新鮮で輝いて見えるのに対し、緑は新しい環境になじむまではむしろ弱々しく頼りなく見える。アクロス福岡のステップガーデンは、完成してから現在まで幾度かの四季を過ごし、素晴らしい成長を見せて、四季折々に変化する景観を市民に提供しつづけ、その頂上から海が見える都市の丘として、福岡市のシンボリックな都市景観にふさわしいものになってきたという認識と確認を経て、今回の受賞となった。（審査委員 田崎 耀二）

【推薦者の声】

音楽鑑賞などで年に何度か訪れますが、ステップガーデンの木も大きくなり、コンクリートはカリのビルのなかでずっとさせてくれるものがあります。景観のみならず環境面からもこのような建物が増えるといいですね。（北九州市若松区 石山節子さん、30歳）

【シンボル部門】



学生の目、審査委員の目
中村 今回の受賞作品の中で、学生の皆さんが選ばれたものと一致したのは「NTT-Tビル（岩田屋Z-SIDE）」と「マツヤレディス大懸垂幕」の2件でしたが、最終審査まで残ったものには皆さんの意見がかなり反映してしましたね。
吉田 私は逆に審査委員の意見と学生の考え方があまり変わらないのが不満でした。学生の選んだものには古い社社群の中の通りや土堀が入

事務局 今年の第12回福岡市都市景観賞の一番大きな特色は、市内5大学で建築やデザインを学ぶ学生さん19人に応募のあった作品をすべて見て回ってもらい、模擬審査をしていただいた点です。その後、選んだ作品について審査委員の先生方の前でプレゼンテーションをしていただきました。この試みを行った理由は大きく2点あります。従来の都市景観賞の審査は第2次審査まで写真と書類に基づいて行っていました。情報量に限りがあり審査が難しいという問題がありました。かといって審査委員に数多い応募作品すべてを現地で見ていただくことは不可能です。そこで、学生さんたちの力を借りてより多くの情報を集める審査の参考としていただくとしたのが1点。また、専門家の集まりである審査委員会に、より市民感覚に近いものを持ち込み市民にわかりやすい都市景観賞にしたいと考えたことが2点目です。学生さんたちには、夏の暑い時期、300件もの作品を分担して見てもらい、大変ご苦労いただきました。日頃、大学で勉強していることを生かすフィールドワークの場として積極的に参加していただいたことを感謝申し上げます。
今日は、お忙しい中、9人の学生さんに再度集まっていたいただきました。審査委員の先生方と今回の受賞作品や都市景観賞のあり方などについて、ざっくばらんに話したいと思っています。

事務局長 今年の第12回福岡市都市景観賞の一番大きな特色は、市内5大学で建築やデザインを学ぶ学生さん19人に応募のあった作品をすべて見て回ってもらい、模擬審査をしていただいた点です。その後、選んだ作品について審査委員の先生方の前でプレゼンテーションをしていただきました。この試みを行った理由は大きく2点あります。従来の都市景観賞の審査は第2次審査まで写真と書類に基づいて行っていました。情報量に限りがあり審査が難しいという問題がありました。かといって審査委員に数多い応募作品すべてを現地で見ていただくことは不可能です。そこで、学生さんたちの力を借りてより多くの情報を集める審査の参考としていただくとしたのが1点。また、専門家の集まりである審査委員会に、より市民感覚に近いものを持ち込み市民にわかりやすい都市景観賞にしたいと考えたことが2点目です。学生さんたちには、夏の暑い時期、300件もの作品を分担して見てもらい、大変ご苦労いただきました。日頃、大学で勉強していることを生かすフィールドワークの場として積極的に参加していただいたことを感謝申し上げます。



NTT-Tビル（岩田屋Z-SIDE）

所在地 中央区天神二丁目5番35号
所有者 エヌ・ティ・ティ九州不動産株式会社
設計者 エヌ・ティ・ティ九州不動産株式会社
施工者 NTT-Tビル新築工事共同企業体
関係者 菊池久馬（建築デザイン全般に対する指導・監修）
株式会社岩田屋

【講評】

都市の、とりわけ今後の都市のダウンタウンの魅力は、その都心が持つ公共スペースの質と量によって規定される。高度な商業集積機能の天神地区で、いわゆる公開空地制度（オープンスペースを設けることを条件に容積率を緩和するなどのボーナスを認める制度）を活用した公共スペースづくりが展開されてきたが、空間的な魅力を発揮するまでに至らなかった。このZサイド広場は、まずその空間的なボリュームが快適であり、さらに広場床のペープの色合いや質感のデザイン、テラートのエントランス部の開放感や角部の曲面ガラス面の軽快さも相俟され、天神地区に慣れて魅力的な空間を提供している。また、夜の広場全体の光の演出も魅力的であり、天神地区のイメージシーンにエポックを与えている。

（審査委員 竹下 耀和）



[アメニティ部門]

天神西交差点歩道広場

所在地 中央区大名二丁目1B2-3番地
所有者 福岡市
設計者 株式会社松本島アサイン事務所
施工者 有限会社博田洋画
関係者 天神西通り協議会（設計地の寄付及び広場の管理）
福岡博多シティライオンズクラブ（同上）



【観評】

福岡市の中心地天神やあちこちの駅前辺で不法駐輪が目にするところであるが、この広場はコンセプトのひとつである不法駐輪の防止という観点において成功をおさめている。くどくどぶつぶつ言うことなく、駐輪し放題の雰囲気のあるオープンスペースづくりは不法駐輪をなくすものであることを実証した。また、まちなかの彫刻はやもすると台座に据えられありがたく（ありがたくないときも）うやうやしく置かれ、見上げて眺めざるをえないものであったが、この彫刻は老若男女が思わず触った心ややかになるものである。パブリックアートとして松永真氏の作品を採用した点が成功をおさめていると思われる。やもするとふきだまりになりそうな小さなスペースをまちなかの新たなエネルギーとなる歩道広場とした点は、狭い都市空間を利用した21世紀の広場のあり方を示唆したもののように思えた。（審査委員 河地 洋子）

【推薦者の声】

往來の激しい周辺通りから新天町を抜けてここへ来ると、自然にこころししてしまいます。私だけでなく、信号待ちしている人たちが暫ほつとしているみたい。遠回りしてでもここを通りたいと思える広場です。（中央区葛松 有馬任代さん、33歳）



話ですが、気持ちがあなごむものを進んだからといって年寄りくさいとは思いません。それに都市景観賞に設計者の主観を前面に押し出したものや攻撃的なものを進ぶのはどうでしょうか。ずっとまちなかに残っていくものだから、デザインがいいからというだけで選ぶわけにいかないでしょう。

学生（灘通）さっきの若さが無いというお話ですが、気持ちがあなごむものを進んだからといって年寄りくさいとは思いません。それに都市景観賞に設計者の主観を前面に押し出したものや攻撃的なものを進ぶのはどうでしょうか。ずっとまちなかに残っていくものだから、デザインがいいからというだけで選ぶわけにいかないでしょう。

田嶋 同じ緑化が高く評価された作品で「アクロス福岡」が受賞していますが、「アクロス福岡」は当初の計画から天神中央公園が取り込まれ、緑が建築に溶けこんでいる点がすばらしい。しかし、建築物をつくったあとで緑化を進めたいと思われる作品は審査の最終段階で落ちてしまいました。

田嶋 私は熊本に住んでいますので、外から福岡を見ると、福岡の景観に大切なのは新しいものへのチャレンジ精神だと思います。古いものを守るよりこれからつくる新しい景観に福岡らしさがあらわれてくるような気がします。学生（村上）緑化がすばらしいものを評価したのは、単に気分が落ち着くといった理由ではありませんが、植物の苗を近隣に配ったり、緑を運んでコミュニケーションをしている、そんなあったかいシステムがあったことを重視したつもりです。

田嶋 私は熊本に住んでいますので、外から福岡を見ると、福岡の景観に大切なのは新しいものへのチャレンジ精神だと思います。古いものを守るよりこれからつくる新しい景観に福岡らしさがあらわれてくるような気がします。学生（村上）緑化がすばらしいものを評価したのは、単に気分が落ち着くといった理由ではありませんが、植物の苗を近隣に配ったり、緑を運んでコミュニケーションをしている、そんなあったかいシステムがあったことを重視したつもりです。

ついで、攻撃的なデザインのものも落とされていきましたね。それに、緑化などで落ち着いた雰囲気を与えているものを高く評価していたりするのですが、なんだか若さが無いという感じがしました。



にしてつかりテン

所在地 中央区天神二丁目6番1号
所有者 西日本鉄道株式会社（テラス部分の所有）
設計者 株式会社MIDS
施工者 株式会社中工務九州支店
関係者 株式会社西鉄名店街



【観評】

本物件は、西鉄福岡駅の再開発に伴い、期間付きで旧NHK会館ビルの1階に入居している「仮店舗」である。仮店舗といえば、ともすれば一時的のぎの安っぽい店構えになりがちであるが、ここでの店舗設計は、既存の建物の一部をうまく活用し、まちなかの商店としてのしっかりした「顔」をつくらせている。店舗前面を広いガラス張りにし、また部分的には屋外テラスを設置するなど、道路空間との連続性にも十分配慮されており、表通りに対して明るく、楽しい表情を提供している。仮設的な店舗であっても、きめ細かいデザインへの気配りがあれば、魅力あるまちなみ景観の創出に大いに効果があることを示すよい例といえる。（審査委員 岡 達也）



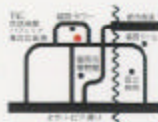
【テーマ部門(屋外広告・サイン)】

TNC放送会館バヴェリア集合広告塔

所在地 早良区百道浜二丁目3番2号
所有者 株式会社福岡メディア・ティー・ティービル
株式会社テレビ西日本
設計者 株式会社大広九州支社
施工者 株式会社サインテリア マツヤ

【講評】

シーサイドももちは、美しい景観で福岡の人気スポットのひとつ。異業エッセーの応募数も最多で、市民の評価が高い。その一方で、バブル崩壊後の建設が遅れ、にぎわいの形成が今一歩。屋外広告物の規制が厳しすぎるから、という批判も聞く。しかしそれには、あいまいな風情や気候も多い。低層部は人に優しくにぎやかに、遠くから見る高層部は先進性と空間の格調を重視する、というのが景観づくりのコンセプト。趣旨を理解し、内容をよく読めば、かなりのことができる。受賞作はその対峙。多数の入屋店舗を印象深く見せるのはただでさえ至難の技。それを4つのグループに分けてわかりやすく楽しく強調した。小品ではあるが工夫が光り、審査委員の共感を博した。(審査委員 佐藤 優)



部門の分け方に工夫を
学生(村上)「二天神西」で低い木を植えて駐輪しにくくした点など、私は評価できると思います。でもアメニティ部門で選ばれているのは納得できません。選ばれた理由が部門の名前から想像できません。写真だけ見ても市民には設計段階の話や以前の問題点はわかりませんから、選ばれた理由が一目でわかるような部門名にしたらどうでしょうか。
学生(渡邊)「シンボル」「アメニティ」という部門の分け方はわかりにくいですね。応募するときに何部門なのか市民がネーミングしたり、

中村 今、攻撃的と感じられても、評価を繰り返すと変わってくることもあるかもしれません。できあがったものが最初から受け入れられる場合と、時を経て価値が認識されるものがあるのが、建築ではなく景観賞の特徴です。「アクロス福岡」も完成してから4年ほど、木が育つかどうかを観察していました。
そのほかの作品で「マツヤレディス大懸垂幕」などは皆さんのプレゼンテーションが大きい参考になって選ばれましたね。
学生(安藤) 同じように交差点にある「二天神西交差点歩道広場」は彫刻が前面に出ているような気がして自分は評価できなかったのですが、マツヤレディスの懸垂幕は商品のPRでなくオフィス街にホッとできるメッセージを送っているのいいと思います。交差点という空間の中に心理的なものを発生させるソフト面の効果を評価しました。
吉田「二天神西」はアメニティ部門、「マツヤレディス」はテーマ部門と、部門が違うので我々の評価基準も違い、同列で比べることは難しいですね。「二天神西」では、地元の人たちが時計塔の寄付をしたり、広場ができたあとの管理を積極的にを行っています。それに以前は駐輪が多かった場所が広場ができて明るくなったという点に注目して選考しました。



マツヤレディス大懸垂幕

所在地 中央区天神四丁目3番8号
所有者 株式会社福岡私塾

【講評】

この懸垂幕は、いつも気に掛かっていた。深道戦争の激戦地・天神、%off、クリアランス、大乗り出しの字が踊るなかで、このサインはユーモラスにして時にはシニカルなパロディで、鮮やかな自己主張をしている。

天神北側の菱形交差点をうまく利用してアイポイントを作りだしているアイデアは、なかなかの知恵者だなと感心してしまう。周辺通りを北へ直進すると、必ずこの懸垂幕が目が行く仕組みなのだもの。この懸垂幕が叫びかわるたび、今回はどんな「ナンナン」かと思わず見上げてしまう。

こんな上質なコミュニケーションサインが天神の魅力、店舗への吸引力になって、この不況風を吹き飛ばしてほしいものである。(審査委員 山本 智子)

【推薦者の声】

懸垂幕は文字はかりのものが多いのですが、ここは写真や絵を多用してメッセージを伝えており、受け手の共感を得ていると思います。他のデパートなどでも最近このような手法が増えていますが、マツヤレディスは伝統がありますね。(中央区平尾 遠藤治朗さん、51歳)



[特別表彰]

カタルーニャの熱い風

企画者 カタルーニャの熱い風実行委員会

【概要】

福岡出身の彫刻家・外灘忠昭氏がサグラダファミリア教会の彫刻を制作していることをきっかけとして、福岡とスペイン・カタルーニャ地方との交流を企画。ボランティアの市民、大学、企業、行政等が共同して約10日間のイベントを実施した。シンポジウム「ガウディが見た21世紀」、公開記念講座「ガウディの造形観」、サグラダファミリア教会のらせん性の模型を制作する展示・ライブイベント「カタルーニャのころとたち」、カタルーニャと福岡の子どもたちが描いた絵を展示する「はくらの街」等、多彩な内容で建築やまちづくりについて考える機会を市民に提供した。

【講師】

外国の一地域の文化や風土を紹介し、市民が交流した催しの受賞は異例だろう。だが、民族衣装の舞踏もきめた多彩な催しは、まちをスペイン色で彩って市民の目を惹きましたし、都市の景観や建築のあり方、さらにそこに住む人の生き方にも大きなヒントを与えた。

ガウディ建築に関わる人々や研究者とのシンポジウム・講座・勉強会は建築や芸術を学ぶ学生たちを刺激した。「計画に固執する必要はない」とのスペイン流の考えも「良く変えていこう」というまちづくりに関する大切な意識を教えてください。催しの詳細はインターネットで発信。アイルランドからは「我々もやりたい」と申し出があるなど数カ国からアクセスがあった。福岡と世界各地を結びさっかになるかもしれない。(審査委員 吉田 浩)

【推薦者の声】

友人に誘われてボランティアで参加しました。打ち合わせや展示イベントでの見張り番などの仕事を皆と一緒に主体的に楽しみました。受賞を機にこんなイベントが市民の手で実現できるということを知ったことにも多くの人に知ってもらえたらうれしいです。(南区老司 国弘志航さん、24歳)



(写真撮影) 大野 金繁、山本 伸生、吉井 裕志

選んだあとで部門を決めたりするのいいと思います。

吉田 いい意見ですね。実は選考後に市民が応募したのは別の部門に移した作品もあるんです。部門は柔軟に考えた方がいいですよ。

中村 部門のくくり方は難しい問題です。これまでも試行錯誤していろいろ変えてきましたが、これからの課題として残りますね。

学生(村上) 今回は私たちが初めて参加したので、都市景観賞の部門編成や選考基準をそのまま使ったのですが、来年以降もやらせてもらえるならもっと自由に選んでみたいです。

市民のための都市景観賞へ

事務局 最後に審査委員の方から一言ずつお聞いします。

中村 私は、都市景観賞は最終的には市民が選ぶのだと思っています。将来は若若男女いろいろな市民に審査してもらえようにならなければいけません。あるいは、賞というものが必要なのだろうか、と考えることもありましたが、つまり、景観に優劣をつけることがいいことなのかということですね。ただ、福岡市が望ましい景観のビジョンを掲げ、それに近づける努力をすることは価値のあることで、そのための賞と考えるれば大きな意味を持つと思います。

田崎 景観はみただけではなく、環境や人の内面的なものからいって、本当に難しい。学生の皆さんにはバランス感覚よりも若者らしい視点でまちをみつめてほしいですね。今回、都市景観賞に参加したような活動はとてもないことです。もっと発展させていってほしい。

吉田 いろいろ言いましたが、学生さんの熱心さ、優秀さには感心しました。今後も自在にやってください。賞を乗っ取ってしまうとかね(笑)。がんばってください。



『ビバ! はかた』など大博通りのにぎわい形成活動

企画者 博多大博通りクラブ

【概要】

博多大博通りクラブは、大博通りとその周辺の事業所等が行政と協力しながら両人の町・博多の歴史と伝統を生かしたまちづくり活動を行っている。毎年10月に大博通り一帯で行われる博多区文化の祭典「ビバ! はかた」を主催するほか、通りの定期清掃やフラワーボットの設置、輪転機を行うなど、ビジネス街である大博通りにうるおいを与え、にぎわい形成と景観向上に寄与している。

【講師】

世の中にはいろいろな楽しみがある。物を造るということもそのひとつだと思う。しかしながら、公共の物を造るとなると、そうもいかないものである。用地交渉や家屋の移転措置、そして工事のトラブル等々難関に遭遇し、身も心も細る思いばかりである。竣工を迎えたときのわずかな喜びの瞬間はあるものの、広くなった歩道上に我が管轄で駐車している車や、不法な占有物件を見ると、情けなく、くやしさを通り過ぎて泣きたくなる。日本人の、公共物との接し方のまずさを微立ちを覚える。

今回、はからずもすがすがしい人たちの活動を知らされたとき、心に安らぎを覚えると同時に、勇気百倍、将来の雑物にも当たっていくぞという決意を新たにした。これからも大博通りだけでなく、すべての道や公共物が愛される福岡市になることを願う。

温る気持ちで守る道
守る気持ちで温る道

(審査委員 石井 聖治)

